

平成26年度 学校評価(第1回)

学校名(双ヶ丘中学校)

1 平成26年度 重点評価項目

・確かな学力の定着と互いに高め合う集団づくりを目指した学習指導の充実～図書館教育を活用した言語活動の充実～
・規範意識の育成をめざした生徒指導の充実
・基本的生活習慣の確立を目指した健康教育の充実
・学校運営協議会やPTAをはじめとした地域の声を取り入れたより開かれた学校づくり

2 1回目評価

重点評価項目について評価・改善していくための個別評価項目の設定						自己評価		学校関係者評価			
・各項目にねらいを定めた取組の計画・実施 ・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定						・アンケート実施結果、その他指標の結果について整理		評価日	平成26年8月20日	評価日	平成26年9月19日
								評価者・組織	学校評価委員会	評価者(いずれかに○)	学校運営協議会 学校評議員
分野	評価項目	自校の取組	アンケート項目・各種指標	アンケート結果・各種指標結果		分析 (成果と課題)	自己評価に 対する改善策	学校関係者評価に よる意見	学校運営協議会・学 校評議員による改 善に向けた支援策		
1	確かな学力	言語活動の充実による思考力・判断力・表現力等の育成 図書館を活用した授業による学力向上 家庭学習習慣の定着	毎時間の本時のねらいと振り返りを行う活動を中心とした授業展開 全教師が学習指導案作成の上、図書館での授業公開研究を行う。 学年会での家庭学習課題の計画の出題 家庭学習のやり方指導	各種学力状況調査の結果分析 学校評価アンケート 公開授業アンケート 各種学力状況調査の結果分析 学校評価アンケート 全国調査生徒質問紙課題の提出状況	⇒	この4年間、着実に学習状況調査の結果は上がってきている。特にB問題のときは良く、本校が行ってきた多様な取組が功を奏したものと考えられる。総合的な学習が役に立つと考える生徒の割合も高い。しかし、家庭学習の定着はまだ向上の余地があると考えられる。	生徒の活動や多様な体験を取り入れたカリキュラムは今後も継続して行っていく必要があると考える。授業の目標設定をまだ充分に理解できていない授業や言語活動を重視した授業展開へ改善もまだ不十分な面があるので、研修する必要がある。	⇒	ここ4年間の継続的な学力向上を示す値には、参加者全員納得の様子であった。	今後もこの向上を持続していけるように、取組を継続して欲しい。	
2	豊かな心	自他共に大切に する教育の推進 「あいさつすること」の徹底 規範意識の育成	教科化を見据えた道徳の時間の充実 教師の共通理解 外部講師の活用	道徳の授業アンケートや感想 学校評価アンケート 学校評価アンケート 全国調査生徒質問紙 学校運営協議会評価 学校評価アンケート 全国調査生徒質問紙 取組についての感想文	⇒	「人の気持ちをわかる人になりたいですか」「人の役に立つ人間になりたいですか」が高い反面、10Pt近い改善は見られるものの「学校の規則を守っていますか」「いじめは絶対にいけないことだと思いますか」に強い賛同を示す生徒は平均より低い傾向にある。	外部講師を招く等の多様な取組は、キャリア教育の推進にも繋がっており、結果的に学習への意欲付けになっていると考えられる。平均より低い意識も向上の傾向は見えているので、道徳教育・生徒会の活性化共に継続した取組を行っていきたい。	⇒	もっと「あいさつをしっかりする」ということが課題になっているのは、小学校からのことである。規範意識などは、個々による違いもあるのだろうが、あいさつなどは地域として目に見えて大切なことである。	子どもは、大人からのあいさつにできれば「あいさつした」と思っているが、社会では自分からあいさつできることが重要である。アンケートの子どもと大人の意識の違いもその辺りにある。自らあいさつや礼儀をできる大人になってほしい。	
3	健やかな体	基本的生活習慣の確立 安全・安心の取組	「無遅刻・無欠席」の取組 保健室からの啓発 家庭との密な連携	「無遅刻・無欠席」調査 学校評価アンケート 全国調査生徒質問紙	⇒	防煙教室や体験型交通安全教室などの安全に向けての授業も行った。生活習慣に関わるアンケート結果も全国平均と大差はない。保健だよりも継続的に配布されている。	きめ細やかな対応を継続しながら、生徒が安心して、自己存在感や充実感を感じられる「居場所づくり」を推進する。また、多様な生徒に配慮しつつ「無遅刻・無欠席」の取組も継続していくことが効果的である。	⇒	登下校時の生徒の交通マナーも気になるが、女生徒に対する不審者も増えている。そのような面に対する指導も必要になる。	交通や不審者情報があった場合、協議会メンバーにも必ず伝えて欲しい。情報が誇張されている場合も少なくないし、地域ぐるみで安全を守るべきだ。	
4	独自の取組	家庭・地域との連携 小中一貫教育の推進 情報発信の充実	学校運営協議会の活性化 地域の伝統から学ぶ日 清掃や避難所設営体験等	全国調査生徒質問紙 取組実施回数状況 学校運営協議会評価 各種学力状況調査の結果分析 協議会からのご意見 発行・更新回数 運営協議会からのご意見	⇒	PTA活動も活発であり、学校運営協議会も協力的で、定期的な会合が成立しているのみならず、年に2回の学校行事の参画に携わってくださっている。学校評価についての意見もいただいた。 「学校だより」などの保護者への発信も頻度が高く継続している。	引き続き、継続的に情報発信を続け、生徒の学びや活動について保護者や地域と情報共有を図る。また、学校運営協議会を通じて、地域や保護者と学校間の双方向の石の疎通を目指す。小中連携については、教師間の連携に止まらず、小中学校運営協議会の可能性を模索する。	⇒	最近では地域の公園の清掃活動もやってくれていることがよくわかる。小中合同学校運営協議会は、新しい取組だが、どのように運営していくつもりなのか。	小中合同運営協議会については、賛同する。当面、1月の避難所設営体験プログラムに小学生も参加することで合意する。	